資料６

熊本地震からの教訓と課題

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授/教授
室崎　益輝

熊本地震と震災の特徴

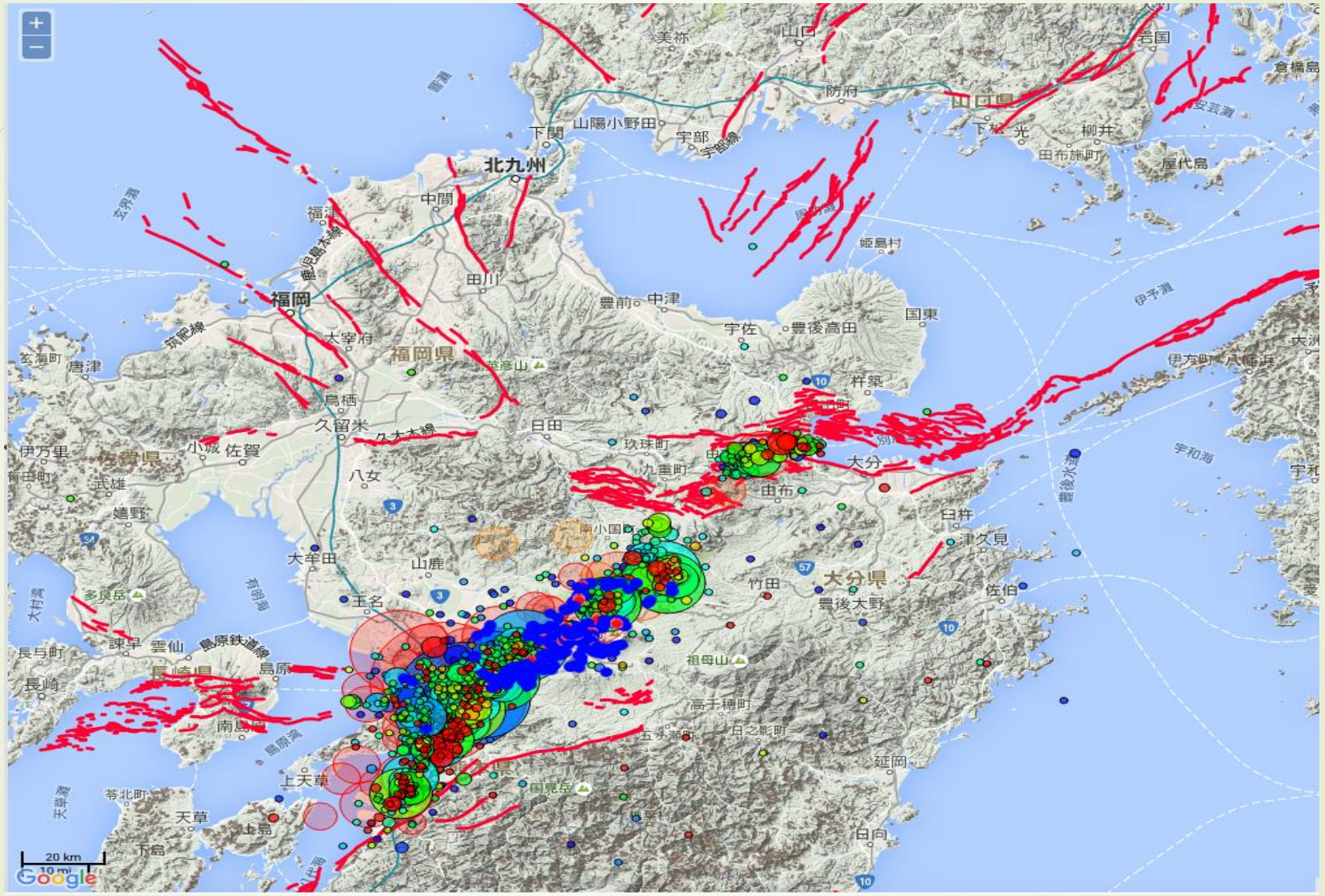
熊本地震の特徴

- 過去に「経験をしたことのない外力？」が加わった

（１）マグニチュード６．５の前震と７．３の本震が28時間の間隔をおいて発生。益城町で震度７を2回も経験。震度７を２回は、震度の計測が始まって以来の日本で初めての経験

（２）連鎖的かつ連動的に、熊本地方、阿蘇地方、大分中部地方などを震源として、地震が次々と発生。余震が拡散しつつ多発している（余震は4000回以上、震度6弱以上の地震が19回）

（３）地震の被災地に記録的な豪雨（時間雨量150mm）が追い討ち


北九州
福岡
福岡県
佐賀県
大分県
山口県
長崎県
下関
山陽小野田
宇部
防府
中間
田川
豊前
中津
宇佐
豊後高田
国東
杵築
大分
由布
日田
久留米
八女
大牟田
山鹿
玉名
諫早
雲仙
島原
長崎
上天草
天草
苓北町
下島
上島
南島原
唐津
玄海町
伊万里
有田町
武雄
嬉野
小城
佐賀
鳥栖
太宰府
筑紫野
玖珠町
九重町
竹田
豊後大野
臼杵
津久見
佐伯
延岡
日向
高千穂町
日之影町
五ヶ瀬町
祖母山
国見岳
多良岳
英彦山
南小国
美祢
岩国
柳井
田布施町
屋代島
倉橋島
姫島村
伊方町
八幡浜
20 km
10 mi
Google

熊本震災の特徴

- 不測の事態が「加害側＝自然の側」だけでなく「受害側＝人間の側」にも発生して、初動や応急の対応の混乱や瑕疵を生み出し、被害の拡大と復旧の遅延をもたらしている

行政や地域の事前の備えや構えが問われる

（１）想定を遥かに超える需要の発生・・膨大な避難者

指定外避難所に約4万人

（２）防災施設や避難施設などの損壊・・繰り返し外力

（３）火山灰が堆積した地盤との連鎖・・地盤の流動化

（４）車中泊などの不適応行動の発生・・危険な立戻り

問われた震災対策

施設や拠点の損壊

- 公的な庁舎、病院、指定避難所などが損壊し、災害対応や緊急避難などに大きな支障
  - 避難空間が不足し、車中泊や軒先避難を招く
  - 避難所が使えないときはどうするのか？
    - 避難所の安全、環境、設置、運営は適切か。
    - 避難者数を少なくする取り組みが必要。

物資や人材の不足

- 想定を超える被害が発生し、大量の救援物資や応援人材が必要となったが、緊急援助隊の派遣などの一部を除いて、補給や配送にボトルネックが発生した

  コミュニティや避難所に物資が届かない

  ボランテイアも来ず、被災者は厳しい環境に放置

  ➡ コミュニティレベルでの自給力と受援力の強化

  待つのではなく、取りに行く

避難生活の厳しさ

- 応急対応や復旧対応の混乱や遅延が原因で、被災者は過酷で危険な環境に長期間放置される

  関連死が直接死の4倍

  （１）車中泊や軒下避難

  （２）倒壊家屋や崩壊地盤の放置・・公費解体が進まない

  壊れた家を横目で見ながら暮らすのは耐えられない！

  応急危険度で赤紙が貼られると片づけに入れない！

  （３）不健康な避難所環境・・医、食、住、育、連、治

  １か月たっても、おにぎりとパン

再建や復興の遅れ

- 住宅再建だけでなく、経済再建や教育再建などにも遅れが出ている。復興まちづくりも進んでいない。
  （１）避難生活や仮設生活が長期化・・長期避難対策が弱い
  （２）学校の再開が遅れる・・子どもたちにストレス
  （３）地域産業の再建も遅れる・・農業や観光の再建が困難
  （４）復興ビジョンが示されない・・先が見通せず、人口流出も
  再建と復興の「タイムライン」が守られていない！